

## 目的

平成23年度、厚生労働省の「在宅医療連携拠点事業」の委託を受けて協議会を設立、活動している。

- ・多職種連携の課題に対する解決策の抽出
- ・在宅医療従事者の負担軽減の支援
- ・効率的な医療提供のための多職種連携
- ・在宅医療に関する地域住民への普及啓発
- ・在宅医療に従事する人材育成

## 活動内容

### 1. 合同会議、りんく塾

平成29年度、合計6回の合同会議、りんく塾を開催した。

りんく塾はアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の普及、推進を目的に、ACPファシリテーターの養成、各事業所内での研修会の方法について講義、実践報告、ロールプレイ・グループワーク等を実施した。

#### 第1回合同会議(平成29年5月29日76名参加)

- ・講演「ACPにおける法律面からのアプローチ」  
札幌総合法律事務所弁護士 福田直之先生
- ・役員改選  
会長 五十嵐知文(西岡病院 副院長)  
副会長 寺本信(西岡水源池通りクリニック 院長)  
川中誉代(有料老人ホームシルバーハイツ羊ヶ丘 1.2 番館)  
川野武人(札幌市豊平区第2地域包括支援センター 所長)
- ・NewsLetter 第36号に当日の様子を掲載

#### 第1回りんく塾(平成29年7月31日78名参加)

- ・講演「在宅医療における意思決定の重要性とその共有のあり方」  
札幌市在宅医療協議会 会長 坂本仁先生
- ・報告「りんく塾が目指すもの」  
西岡病院 内科医長 澤田格
- ・NewsLetter 第37号に当日の様子を掲載



▲第1回りんく塾・坂本仁先生講演

- 第2回りんく塾(平成29年9月25日55名参加)  
・講演「調剤薬局薬剤師におけるACP導入の課題」  
西岡メディカル薬局 管理薬剤師 上田直人先生
- ・「ACP導入研修の進め方(初級編)」  
とよひら・りんく 事務局 岡村紀宏
- ・グループワーク「ACPを進める上での課題」
- ・NewsLetter 第38号に当日の様子を掲載
- ・ACP導入研修(初級編)をホームページに公開

#### 第3回りんく塾(第2回合同会議)(平成29年11月27日53名参加)

- ・報告「札幌圏における地域医療構想の考え方と協議の進め方」  
会長 五十嵐知文
- ・報告「ACP導入研修開催事例」  
有料老人ホームシルバーハイツ羊ヶ丘 1.2 番館施設長 川中誉代氏
- ・「ACP導入研修の進め方(応用編①)」  
とよひら・りんく 事務局 岡村紀宏
- ・NewsLetter 第40号に当日の様子を掲載
- ・ACP導入研修(応用編①)をホームページに公開



▲第3回りんく塾・グループワーク

#### 第4回りんく塾(第3回合同会議)(平成30年1月29日39名参加)

- ・報告「ACP導入研修開催事例」  
西岡メディカル 薬局専務取締役 庄田和秀氏  
西岡病院 看護師長 西川奈美氏
- ・「ACP導入研修の進め方(応用編②)」
- ・NewsLetter 第41号に当日の様子を掲載
- ・ACP導入研修(応用編②)をホームページに公開

#### 第4回合同会議(平成29年3月27日47名参加)

- ・報告「平成29年度の活動」  
西岡病院 内科医長 澤田格
- ・報告「個人情報保護の要点」  
社会医療法人恵和会 情報管理室長 石川敏弘
- ・NewsLetter 第42号に当日の様子を掲載

地域医療構想シンポジウム(平成 29 年 11 月 14 日 168 名参加)

(後援北海道医師会、札幌市医師会、北海道、札幌市)

・講演「札幌圏における地域医療構想の考え方と協議の進め方」

北海道保健福祉部地域医療課 小川善之先生

・シンポジウム

座長 社会医療法人恵和会 理事長 西澤寛俊先生

シンポジスト順不同

北海道医師会 常任理事 伊藤利道先生

札幌市医師会 統括理事 宮崎誠一先生

KKR 札幌医療センター 院長 磯部宏先生

北海道整形外科記念病院 理事長・院長 加藤貞利先生

札幌しらかば台病院 院長 遠藤高夫先生

柏葉脳神経外科病院 理事長・院長 金子貞男先生

小坂病院院長 小坂昌宏先生

華岡青洲記念心臓血管クリニック 理事長 華岡慶一先生

札幌ライラック病院 院長 本庄恭輔先生

JCHO 北海道病院 院長 古家乾先生

西岡第一病院 理事長・院長 皆川裕樹先生

西岡病院 院長 中島茂夫先生

・NewsLetter 第 39 号に当日の様子を掲載

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団

(<http://www.zaitakuiryo-yuumizaidan.com/>)

りんく塾は在宅医療助成勇美記念財団の助成を受け開催された。札幌市、札幌市医師会の後援のもと、研修会として「りんく塾」を合計 4 回開催したほか、以下の活動を行った。

普及教材の活用

第 2 回～第 4 回りんく塾の講義内容は各機関で活用できるようホームページに掲載した。

◆ 第 2 回内容

[http://www.toyohiralink.jp/pdf/ACP\\_20170925.pdf#zoom=100](http://www.toyohiralink.jp/pdf/ACP_20170925.pdf#zoom=100)

◆ 第 3 回内容

[http://www.toyohiralink.jp/pdf/ACP\\_20171127.pdf#zoom=100](http://www.toyohiralink.jp/pdf/ACP_20171127.pdf#zoom=100)

◆ 第 4 回内容

[http://www.toyohiralink.jp/pdf/ACP\\_20180202.pdf#zoom=100](http://www.toyohiralink.jp/pdf/ACP_20180202.pdf#zoom=100)

普及教材を作成し、「りんく塾」で活用するとともに、各相談場面でも活用した。

平成 26 年度厚生労働省「人生の最終段階における医療体制整備事業」で作成した冊子について第 2、3 回りんく塾でのグループワークでの意見等をもとに、冊子「自分

らしく生きるために」と「リビング・ウィル」の記載を見直し、1 冊とするなど修正を行った。

冊子「自分らしく生きるために、リビング・ウィル」

冊子「ご自宅でご家族を看取られる方へ」

地域住民向けに「人生の最終段階に向けて」等の講話を行った。(冊子等を活用)

平成 29 年 10 月 26 日 シルバーハイツ羊ヶ丘 1.2 番館

[http://www.toyohiralink.jp/pdf/media\\_201801.pdf#zoom=100](http://www.toyohiralink.jp/pdf/media_201801.pdf#zoom=100)

平成 29 年 11 月 29 日 西岡水源池通りクリニック

<http://www.suigenchi.jp/clinic/index.php>

メディア

・第 1 回りんく塾平成 29 年 8 月 8 日北海道医療新聞に掲載された。

[http://www.toyohiralink.jp/pdf/media\\_20170804.pdf#zoom=100](http://www.toyohiralink.jp/pdf/media_20170804.pdf#zoom=100)

・第 2 回りんく塾平成 29 年 10 月 6 日北海道医療新聞に掲載された。

[http://www.toyohiralink.jp/pdf/media\\_20171006.pdf#zoom=100](http://www.toyohiralink.jp/pdf/media_20171006.pdf#zoom=100)

・第 4 回りんく塾平成 30 年 2 月 9 日北海道医療新聞に掲載された。

[http://www.toyohiralink.jp/pdf/media\\_20180209.pdf#view=Fit](http://www.toyohiralink.jp/pdf/media_20180209.pdf#view=Fit)

成果・課題

現在、当地域で課題としている人生の最終段階における相談支援の援助技術の向上のためアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の導入・普及について研修会を開催した。

年度内、計 4 回の研修で延べ 225 名の医療・介護従事者(医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員、介護職員等)が参加した。

ACP 普及のため、研修会「りんく塾」は下記の内容に重点を置いた。

1) ACP を多職種に拡げること

関わる職種は医師、看護師、薬剤師の病院スタッフや介護支援専門員、介護職等介護の現場まで幅広く拡大することをロールプレイ等の演習を行いながら理解・認識した。

2) 地域社会へ拡げること

地域社会への拡大も意識し、本研修会の参加者が講師役となり、自事業所での研修会も開催を行ったほか、研修会の様子をメディアにも取り上げられ、NewsLetter を配信し、取り組みの拡散を行った。

### 3) ツールを整備すること

情報共有として、冊子「自分らしく生きるために、リビング・ウィル」「ご自宅でご家族を看取られる方へ」を作成した。前回作成成分より相談しやすいよう、相談場面での活用を重視し作成した。

本研修会を通して、「ACP の必要性を理解できた」「ロールプレイを実際に行うと参考となる」等の肯定的な声のほか、「ACP はなかなか難しい」「ACP を連携する方法」等の課題もあげられ、今後の課題となった。継続的に取り組むことが必要であると考えている。

今後、ACP 普及は更に重要となってくると本研修会を通して感じている。次年度は各事業所の ACP 共有の仕方や多職種での情報共有のあり方等、ACP を通した多職種連携にも重点を置いて取り組むべきだと考えている。今後も冊子等を活用し、より具体的に人生の最終段階に関わる相談支援を継続的に地域で取り組んでいきたい。

## 2. ACP 研究会とのかかわり

平成 29 年 9 月 2 日開催(愛知県)の第 2 回年次大会に以下の役割を担った。

大会長	五十嵐知文
実行委員長	澤田格
事務局	岡村紀宏

### アドバンス・ケア・プランニング(ACP)研究会とは

本研究会は、平成 26、27 年度厚生労働省「人生の最終段階における医療体制整備事業」(患者の意思を尊重した人生の最終段階における医療を実現するための適切な体制のあり方を検証するためのモデル事業)の評価実施機関である国立長寿医療研究センターが事務局となり、当事業の採択医療機関を主なメンバーとして、平成 28 年度に設立した研究会である。全国における ACP の研究及び研修を推進し、地域住民、患者家族、そして、医療・ケアに携わる多職種が、少しでも早い段階から、前もって、人生の最終段階に向けて、継続的に対話を重ねる医療文化の普及発展に寄与することを目的とする。

平成 28 年 6 月 11 日(土)に第 1 回年次大会を開催した

ホームページ

ジ [http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/acp\\_hp/index.html](http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/acp_hp/index.html)

### 開催概要

第 2 回年次大会として下記の内容で開催した。

平成 29 年 9 月 2 日(土) 愛知芸術文化センターにて開催した。

参加者 151 名

参加者の職種は下記の通りである。

医師	32 名
薬剤師	5 名
看護師	58 名
医療ソーシャルワーカー	23 名
理学療法士	3 名
介護支援専門員	6 名
行政職	3 名
介護職	4 名
その他	17 名

※その他:議員、弁護士、教員、事務職、針きゅう師、臨床心理士等

都道府県別に見た参加者は下記の通りである。

愛知県:83 名、富山県・北海道:6 名、  
岐阜県・福井県:5 名、群馬県・兵庫県:4 名、  
神奈川県・千葉県・三重県・京都府・大阪府・沖縄県:3 名  
東京都・新潟県・長野県・滋賀県・和歌山県・広島県:2 名  
岩手県・茨城県・栃木県・石川県・山梨県・奈良県・岡山県・福岡県:1 名

プログラムは下記の通り。

・第 1 部(協賛:榊塩野義製薬)

14:00	開会あいさつ 三浦久幸(ACP 研究会代表世話人) 五十嵐知文(本会大会長)
14:05	基調講演 座長 五十嵐知文(本会大会長)
14:10	イントロダクション 「ACP 研究会の発足経過と今後について」 国立長寿医療研究センター 西川満則(ACP 研究会世話人・事務局)
14:20	基調講演(1) 「当院におけるシルバーケアチーム、シルバーケアユニットの創設と ACP 普及の取り組みについて」 公立富岡総合病院院長 佐藤尚文
14:50	基調講演(2) 「ACP における法律面からのアプローチ」 札幌総合法律事務所弁護士 福田直之
15:20	終了

・第2部(共催:公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団)

15:30 演題発表(ACP研究会枠)

座長 春日井市民病院 外科がん相談支援センター 部長 會津恵司

(1)「平成26、27年度人生の最終段階における医療体制整備事業の振り返りと今後のACPの展開について」

国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部 三浦久幸(医師)、西川満則(医師)

(2)「在宅療養患者から学んだACP普及における問題点」

岩手県立二戸病院 副院長(消化器内科) 高橋浩(医師)

(3)「亀田総合病院の取り組み」

亀田総合病院 緩和ケアチーム専従看護師 千葉恵子(看護師)

(4)「慢性心不全におけるACP支援ツールの開発までの経緯と取り組み」

国立循環器病研究センター 高田弥寿子(看護師)、菅野康夫(医師)

(5)「患者の思いをつなぐ連携に向けたACP相談員育成の試み」

春日井市民病院 渡邊啓介(臨床心理士)

(6)「地域・外来から始めるACP～人生の最終段階に備えるACP～」

オレンジホームケアクリニック代表 紅谷浩之(医師)

(7)「医療現場にACPを取り入れてゆくために」

西岡病院内科医長 澤田格(医師)

16:50 休憩

17:00 演題発表(一般演題枠)

座長 亀田総合病院 緩和ケア科医長 蔵本浩一

(1)「介護現場におけるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)～ACPプロセスに関する事例提示とACPに対する介護職員意識調査～」

有限会社レモン介護サービス 大城京子(ケアマネジャー)、櫛康利(通所介護事業所管理者)

(2)「緩和ケア病棟でのACP:「生前葬」という選択によりそって」

友愛会南部病院 緩和ケア内科/麻酔科 笹良剛史(医師)

(3)「調剤薬局薬剤師におけるACP導入の課題～訪問薬剤管理指導を通して」

西岡メディカル薬局 上田直人(薬剤師)

(4)「腎不全患者のACP相談の実際」

春日井市民病院 山田洋子(看護師)

(5)「アドバンス・ケア・プランニングファシリテーター育成のための研修会の医療従事者にもたらす効果」

南生協病院 下里麻梨子(看護師)

18:00 シンポジウム「日本の医療におけるACPのアプローチ」

座長 国立長寿医療研究センター(ACP研究会代表世話人) 三浦久幸

シンポジスト

国立長寿医療研究センター(ACP研究会事務局) 西川満則

公立富岡総合病院 院長 佐藤尚文

西岡病院(ACP研究会第2回年次大会大会長)副院長 五十嵐知文

札幌総合法律事務所弁護士 福田直之

18:30 終了

・参加者に行ったアンケート結果

1. 基調講演(1)「当院におけるシルバーケアチーム、シルバーケアユニットの創設とACP普及の取り組み」

とても良かった	53.4%
良かった	44.7%
どちらとも言えない	1.9%
あまり良くなかった	0.0%
良くなかった	0.0%

<とても良かった>

- ・「感性」「哲学」という言葉が心に響いた(医師)
- ・内容が具体的でイメージしやすく聞きやすかったです(看護師)
- ・個人の物語を知ることの重要性を感じた内容だった(看護師)
- ・シルバーケアユニットの取り組み、大変興味深かったです(看護師)
- ・知識、技術、感性、哲学が大切であるという点が本当にその通りだと思い、1人1人の患者の生き方を支える看護師の育成をしていきたいと共感しました(看護師)
- ・感性、哲学の能力の育成について具体的でしっくりくる内容でした(看護師)
- ・大変わかりやすく参考になりました(医療ソーシャルワーカー)
- ・今回初めて参加し意義、取組み等を理解することができた(その他・事務職)

<良かった>

- ・これからの医療がどうあるべきなのかという視点で看護師としての実践を見つめなおす機会となった(看護師)

- ・価値観、倫理観、ACP の重要なポイントをつかむことができた(医療ソーシャルワーカー)
- ・対話できる風土をどのように作り上げていくのが重要と思う(医療ソーシャルワーカー)
- ・福祉側としては本人を人としてケアすることは当たり前にしてきたが、医療にもそのような取り組みが広がってほしいです(介護支援専門員)

## 2. 基調講演(2)「ACP における法律面からのアプローチ」

とても良かった	30.7%
良かった	60.6%
どちらとも言えない	8.7%
あまり良くなかった	0.0%
良くなかった	0.0%

### <とても良かった>

- ・医療とは違うアプローチでも目的が同じであることを共有できた(医師)
- ・ACP プロセスの「話を聞く」「残す」「伝える」「見直す」の1つ1つをしっかりと行っていきたい(看護師)
- ・自院の対応と比較し参考にしていきたい。判断基準等課題が多く感じました(その他)

### <良かった>

- ・法律家が ACP の入口と出口の働きをしていることがわかり、医療と協働できたら有効だと思いました(看護師)
- ・5W1H 的に具体的なアプローチについても考えを整理することができた(医療ソーシャルワーカー)
- ・目的は同じなので専門領域を超えたコラボをしていきたいと思った(医療ソーシャルワーカー)
- ・後見人業務も行っているので日々の業務が医療側にも理解していただく良い機会だと感じた。後見人として弁護士のみではなく、社会福祉の後見業務はまさに ACP と感じた(介護支援専門員)

## 3. 演題発表(ACP 枠)

とても良かった	41.8%
良かった	55.3%
どちらとも言えない	2.9%
あまり良くなかった	0.0%
良くなかった	0.0%

### <とても良かった>

- ・各施設の拡がりを感じた(医師)
- ・岩手県は県北から県南まで県立病院がある県で一次産

業が主体である状況である。地域性が強いことがあると考えさせられた(医師)

- ・ACP の重要性は理解しつつも展開方法がわからないという状況は当院でも同じである(看護師)
- ・オレンジホームケアクリニックの演題が特に感銘を受けた。在宅でケアマネをしており、訪問診療の Dr、Ns と関わる人が多いので ACP を勧めていきたい(介護支援専門員)
- ・導入が進んでいる施設、病院の実例は非常に勉強になりました(その他)

### <良かった>

- ・個別の事例等、今後の事業所の ACP 展開の参考になると思いました(看護師)
- ・循環器の ACP 支援ツールに関心がある(看護師)
- ・急変した時の ACP も大切ですが、それより前の健全な時の ACP を繰り返すことが重要だと思う(医療ソーシャルワーカー)
- ・地域での ACP の共有がやはり課題と考えます(医療ソーシャルワーカー)

## 4. 演題発表(一般演題)

とても良かった	30.7%
良かった	60.6%
どちらとも言えない	8.7%
あまり良くなかった	0.0%
良くなかった	0.0%

### <とても良かった>

- ・各地から深みのある取り組みを聞くことができ、良かった(医師)
- ・事例を通してそれぞれの立場からのかかわりを知ることができて興味深かった(看護師)
- ・ACP に対する取り組みの実際がよくわかった(看護師)
- ・生前葬もありだな、と感じました(看護師)
- ・透析患者の地域への継続、ACP をつなぐことが必要と感じました(看護師)
- ・地域性、職種によって感じ方は違ってもよりその人に興味を持って聞き、関わる、信頼関係を築くことが大切であることが理解できた(看護師)
- ・多職種の視点、考え方、勉強になりました(医療ソーシャルワーカー)
- ・様々な職種が ACP に参加できる、つないでいける(医療ソーシャルワーカー)
- ・私の両親や自身の死に直面する際におきかえると生前葬含め今後の形態が変わることが予想される(その他)



<良かった>

- ・様々な視点における取り組みや実践の発表であり、興味深かった(看護師)

## 5. シンポジウム

とても良かった	30.7%
良かった	60.6%
どちらとも言えない	8.7%
あまり良くなかった	0.0%
良くなかった	0.0%

<とても良かった>

- ・佐藤先生のあと5年くらいでACPが当たり前になるといところが印象的で明るい方向をみせていただいた発言だった(薬剤師)
- ・わかりやすく理解できた。病院で死をまじかに迎えている一般人では死を考えたことがない。死ぬと考えることがなかったと言われたことに深くうなずきました。生あるものは死があるという考え方は元気なときにもしくは教育として必要なのかと感じました(看護師)
- ・短い時間でコンパクトにお話しいただき、勉強になりました。わかりやすく良かったです(医療ソーシャルワーカー)
- ・様々な取り組みのお話しを一同でできることができ良かったです(医療ソーシャルワーカー)
- ・もう少し時間を設けていただきたかったです(その他・事務職)

<良かった>

- ・もっと時間があると良かった(看護師)

## 成果・課題

全国から151名のご参加をいただき盛況のうちに第2回ACP研究会を終えることができた。

基調講演ではACPが必要とされる背景、法的な観点から見たACPの取り組みについての講演がなされた。アンケートでは「感性」「哲学」という言葉に感銘を受けた。また法律家の目指す方向も医療、介護と「同じ」であるとの認識をいただいた。ACPの活動を行ってゆく上で深い想いを持ち、医療職、介護職にとどまらず地域全体における認知、協調の重要性が示された講演であった。

事例に関する発表では「本人、家族の希望、想いをどのようにくみ取り、その思いをかなえてゆくか」について貴重な取り組みの発表がなされた。アンケートの中でも「導入が進んでいる施設、病院の実例は非常に勉強になりました」「生前葬もありだな、と感じました」等の声と「展開方法がわからないという状況は当院でも同じである」との感想がみられた。「どうしたらいいだろう?」と悩むことが少なくない医療、介護職にとって、好事例、課題をかかえた事

例の発表は今後ますます必要とされると思われた。

その一方で「本人、家族の希望、想い」はその人の機微にふれる事柄であり、それを聞き取り共有するに当たっては細心の心配りが必須であることも強く認識させられた。アンケートでも「循環器のACP支援ツールに関心がある」「地域でのACPの共有がやはり課題と考えます」といった回答があった。ACPをおこなう過程で何度も話し合い、それを多職種で共有し、さらには地域での活動としてゆくにあたっては、ツール等仕組み作りは必要不可欠なものと思われる。そのような体制作りがほぼ未整備である現状で、本研究会で発表された施設での取り組みが広く認識され、さらに発展してゆかねばならないと思われた。

今回の研究会ではACPへの理解、事例発表、仕組みづくりの3点について貴重な発表がなされた。アンケート結果で「大変良かった、良かった」がいずれのセッションでも9割をこえていたが、「もっと時間があると良かった」とのご指摘もいただき、今後も継続してゆかねばならないことが明らかとなった。このことをふまえ本研究会の後に開催した世話人会において、今後も取り組みを進めていく必要があり次年度以降も年次大会を開催してゆくこと。開催地及び大会長を次年度(平成30年度)から平成32年度までを内定し、それに向けて準備を行ってゆくことが了承された。

ACPは医療者のみならず、介護職も含めた様々な専門職が関わり本人の希望する人生を支え、そのような地域を作っていくために要となる活動であるが、その活動はほんの端緒の途に着いたに過ぎないことを認識させられた研究会であった。



▲ACP研究会(愛知県)

## 6. 講演依頼等

- ・平成 29 年 4 月 26 日札幌市豊平区介護予防センター  
月寒  
「リビング・ウィルについて」  
岡村紀宏
- ・北海道医報(第 1185/6 月)号  
「とよひら・りんく」での医療介護連携ネットワークにつ  
いて  
五十嵐知文
- ・平成 29 年 9 月 14 日第 19 回日本褥瘡学会学術集会  
シンポジウム「在宅医療連携拠点が行う人材育成」  
「札幌市豊平区西岡・福住地区で行う看取りに関わる  
人材育成と課題」  
岡村紀宏
- ・平成 29 年 10 月 28 日第 3 回患者家族メンタル支援学  
会(愛知県)  
「人生の最終段階における意思決定支援」  
岡村紀宏
- ・平成 29 年 10 月 27 日シルバーハイツ羊ヶ丘 1.2 番館  
「健康の維持と人生のこれからのこと」  
岡村紀宏

## 7. 取材対応、紙面掲載等

- ・平成 29 年 8 月 8 日北海道医療新聞  
「第 1 回りんく塾」掲載
- ・平成 29 年 10 月 6 日北海道医療新聞  
「第 2 回りんく塾」掲載
- ・平成 30 年 2 月 9 日北海道医療新聞  
「第 4 回りんく塾」掲載
- ・最新医療経営 PHASE3(2018 年 2 月号)  
「平成 29 年度地域医療構想シンポジウム」掲載
- ・平成 30 年 4 月 6 日北海道医療新聞  
「第 4 回合同会議」掲載